

『キャリアプランの立て方』*

本セミナーはキャリアプランの立て方に関する講師の個人的な意見・解釈であり、また全てをカバーしてのものでもありません。適用にあたっての詳細な内容・具体的な要件については、それぞれの専門家へお問い合わせくださるようお願いいたします。相談なくとられた行為について、当方の責に帰すことはご容赦ください。

2011年7月12日

プライスウォーターハウスクーパース株式会社

Deals部 吉田実貴人



本日講義の内容

1. はじめに – Introduction
2. キャリアプラン
3. SWOT
4. Coach/Mentor
5. 資格試験への道
6. 年収
7. クワドラント
8. 最後に
9. PwC ご案内



Introduction

□ 長い(短い)人生のロードマップ作成

- 自分は、何をやってきたか？(過去)
- 自分は、どこにいるか？(現在)
- 自分は、これから何をやっていく予定か？(将来)
- 究極の目的(快樂？安心？社会貢献？)



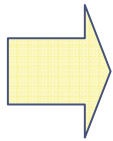
人生の目的は、「快樂」？



心理学

□ 法政大学の一般教養で得たもの

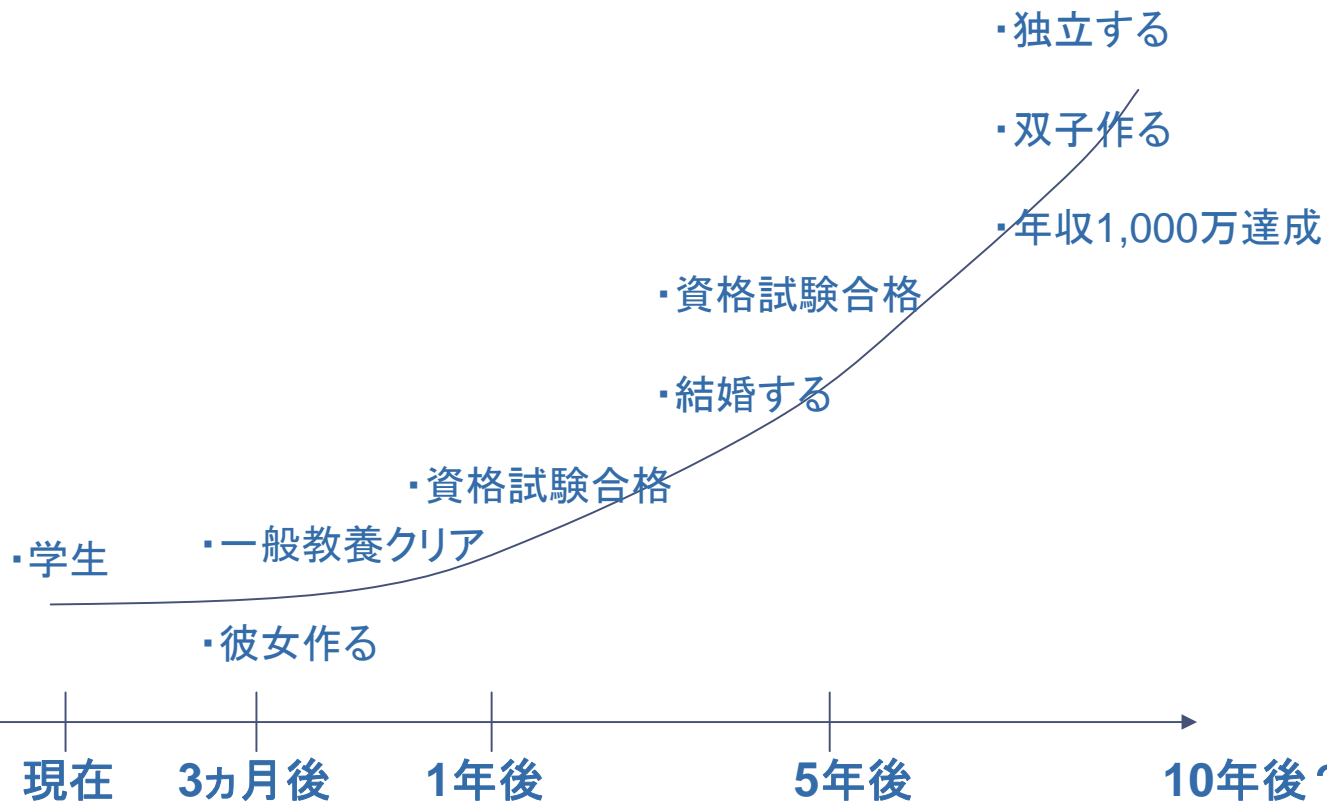
- 一般教養は役に立たないか？



Depends. 就職活動に備えて‘A’取得を目指す人、卒業単位取得‘C’だけを目指す人も・・・



一般教養：
大学(学部)で専攻に関わりなく広く学問的な教養を学ぶ課程。また、広く人間として要求される教育。専門的教養の基礎としての広い教養。



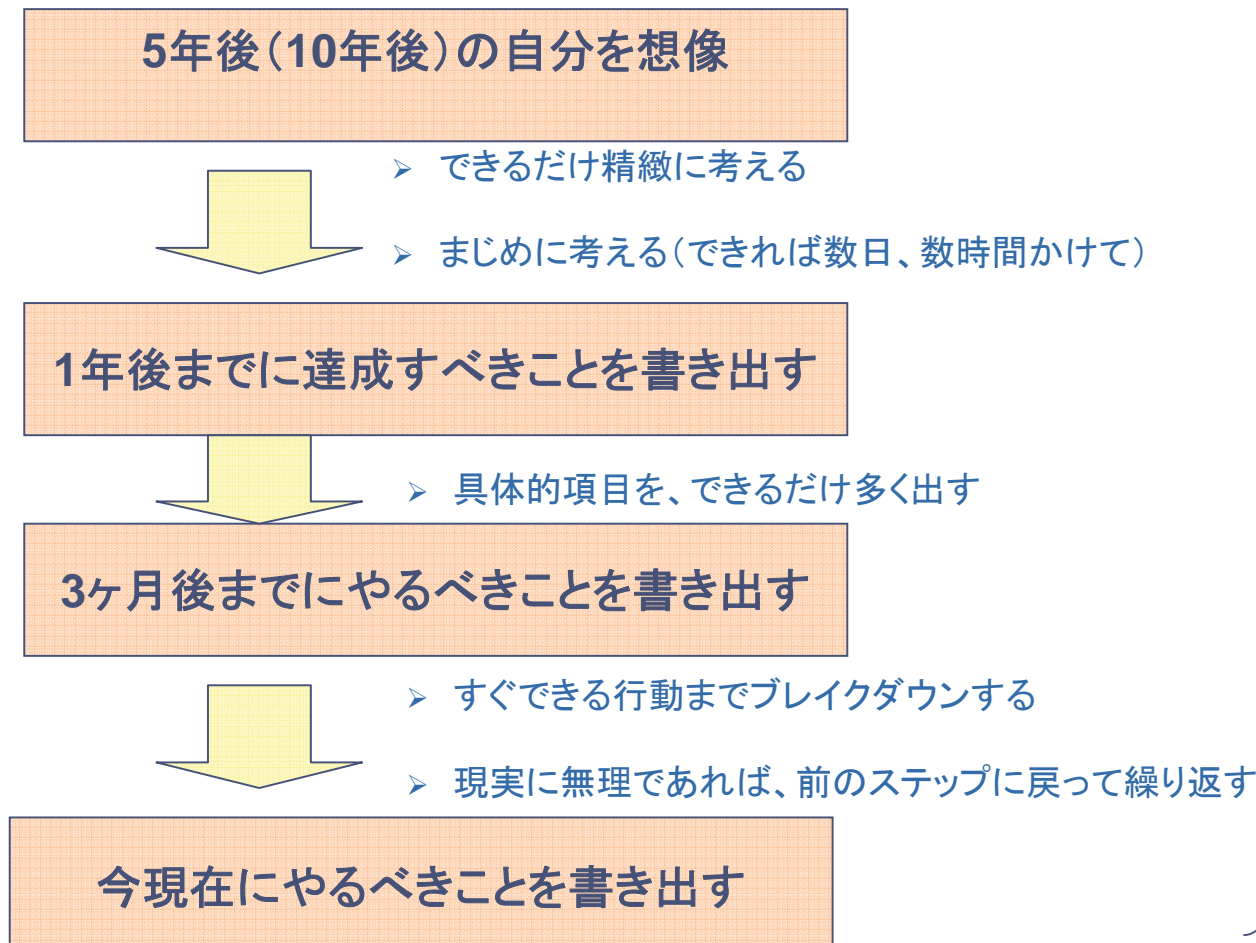
- 選挙に出る (Run for election)
 - 政治家になる (Become a politician)
 - 世界を征服する (Conquer the world)
- で、最終的にどうなりたい？

心理学



□ 心理学で得た知識

- 初めて一般教養の授業内容に共感できた(これは有用)



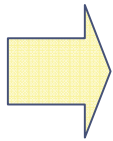
<私の計画>
•5年後の自分
•1年後までに達成すべきこと
•3ヶ月後までに達成すべきこと
•今現在、やるべきこと

- ◆肌身離さず持ち歩く
- ◆毎月(毎日)、内容全体がよいかどうか見直す
- ◆Plan-Do-Seeで、達成できているかセルフチェック
- ◆達成していないときは、①行動を改善するかor②計画自体をもう一度見直す

キャリアプランの例

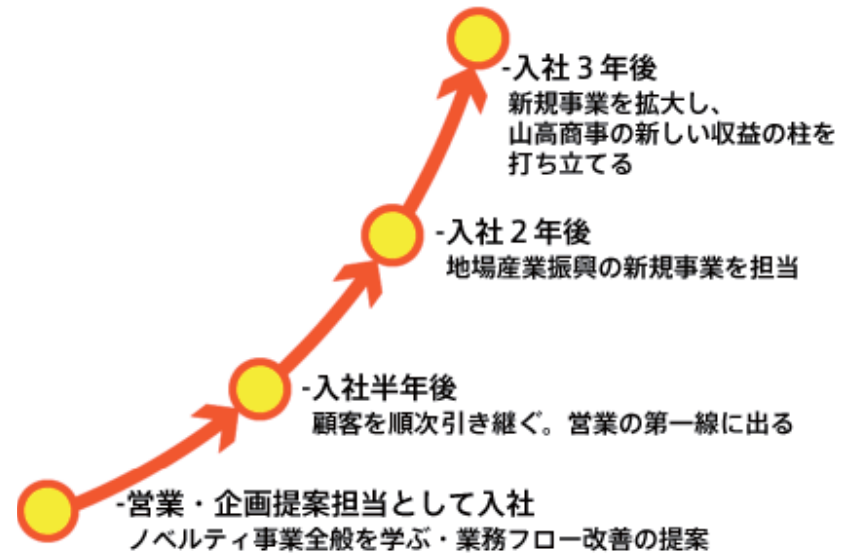
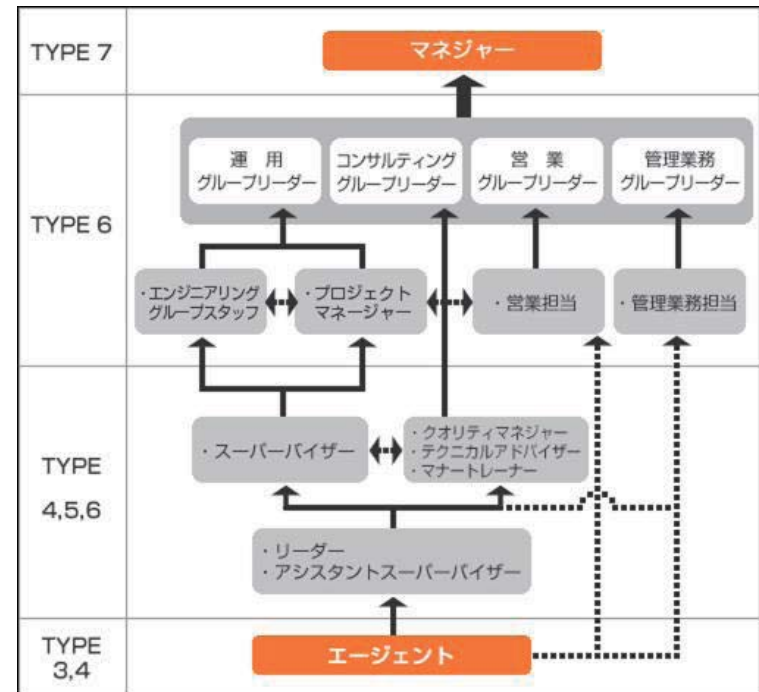
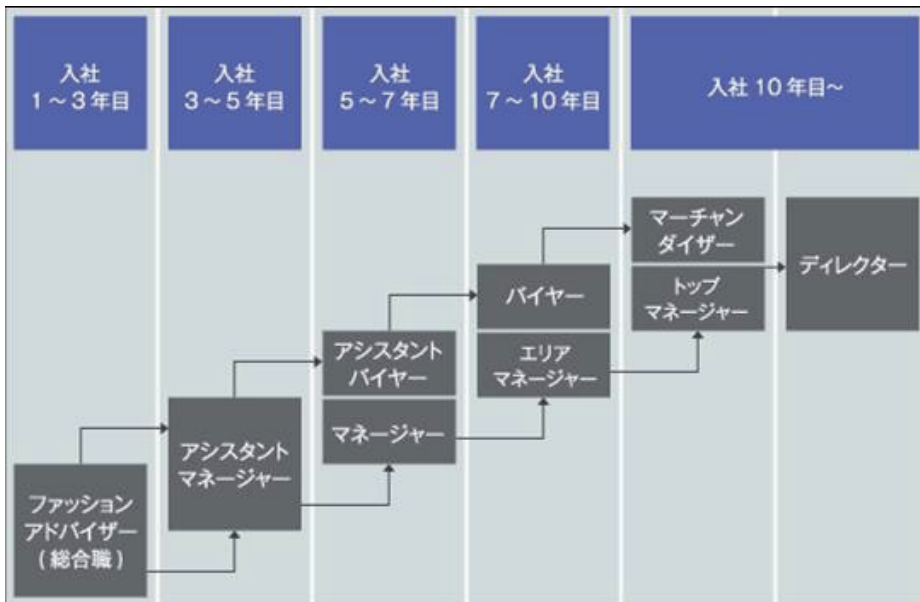
□ さまざまなチャート

- 普遍的なものはない？

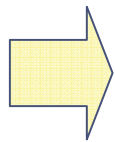


Depends.

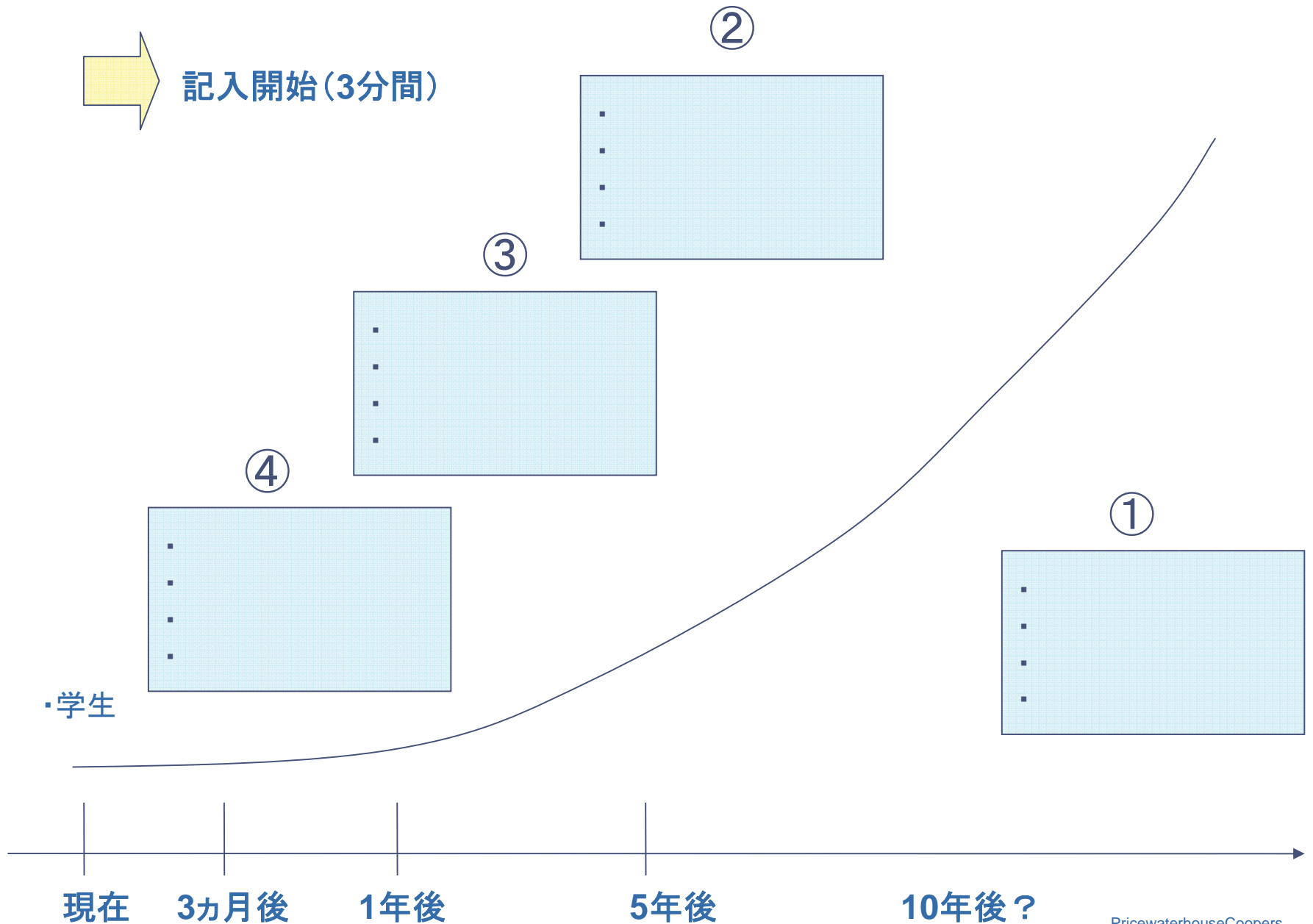
キャリアプランを立てる人の属性による



さあ、あなたのキャリアプランを作ろう



記入開始(3分間)



SWOT分析

- 目標を達成するために意思決定を必要としている組織や個人のプロジェクトやベンチャービジネスなどにおける、**強み (Strengths)**、**弱み (Weaknesses)**、**機会 (Opportunities)**、**脅威 (Threats)** を評価するのに用いられる戦略計画ツールの一つ

- 強み: 目標達成に貢献する個人の特質
- 弱み: 目標達成の障害となる個人の特質
- 機会: 目標達成に貢献する外部の特質
- 脅威: 目標達成の障害となる外部の特質



自分の強み・弱みを、客観的に分析できる。

	内部環境	外部環境
プラス面	強み Strength	機会 Opportunity
マイナス面	弱み Weakness	脅威 Threat

SWOT分析:スタンフォード大学で構築され、ハーバードビジネススクールに取り入れられているポリシーモデルの一部

シンガポールの現状：SWOT分析（例）

[PEST]の視点で作成

- Political
- Economy
- Social
- Technology



強み

- 海上交通の戦略的位置・要衝
- 高いスキルのある労働者
- 効率的なインフラ整備
- 安定した政治体制
- 腐敗のない公正な政府
- 外国からの投資優遇
- 経済の変化に対する対応の早さ

弱み

- 国内消費市場ボリュームの限界
- 外国籍企業への経済依存
- 輸出入への過度な依存
- 地理的限界
- 労働コストの上昇
- 外国の経済市況に左右されやすい

機会

- 英語・中国語圏の橋渡し
- 知的財産の蓄積
- グローバル化に伴う物流の拡大

脅威

- 将来的な老齢化
- 少子化の進行
- テロ・鳥インフルエンザ
- 近隣諸国とのトラブル
- 東南アジア拠点候補との競争



- 比較優位として競争力維持・強化
- 投資先としてオープンかつ魅力のある国へ
- 10-20年後に先進国トップグループの仲間入り（希望）

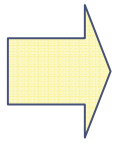
Source: <http://www.singstat.gov.sg>より作成

『キャリアプランの立て方』

リカルドの比較優位論

□ 他人との能力比較

- 絶対的な能力が低ければ、やっていけないか？



No. 他人を知り、自分を知れば百戦危うからず

ワインと毛織物という商品があったとして、小国と大国がそれぞれどちらの商品も生産していたとする。

小国:労働者一人当たりでワイン2単位、または毛織物4単位生産できるとする。

大国:労働者一人当たりでワイン10単位、または毛織物30単位生産できるとする。

小国はどちらの商品生産においても大国より生産性が低いということになる。いいかえれば、大国は小国よりも毛織物およびワインの生産性が高いため**絶対優位**となる。

では小国は大国に対してどちらも競争力がないのであろうか？答えはノーである。

なぜかという、小国ではワイン1単位と毛織物2単位が等価、大国はワイン1単位と毛織物3単位が等価であるからだ。つまり、小国のほうがワインを割安に作れるのである。

小国では毛織物生産を2減らさなければワインを1作ることが出来ない。大国は毛織物を3減らさなければワインを1作ることが出来ない。これが、等価という状態で、小国はワイン生産において**比較優位**である。



David Ricardo

古典派経済学者

比較生産費説を主張し、労働価値説の立場に立つ。自由貿易を擁護

比較優位(ひかくゆうい) comparative advantageとは自由貿易に関して生まれた考え方で、経済学者デヴィッド・リカードが提唱した。

比較優位を持つ(相手より機会費用の少ない)財の生産に特化し、相手の財を輸入することでそれぞれより多くの財を消費できるという国際分業の利益を説明する理論。

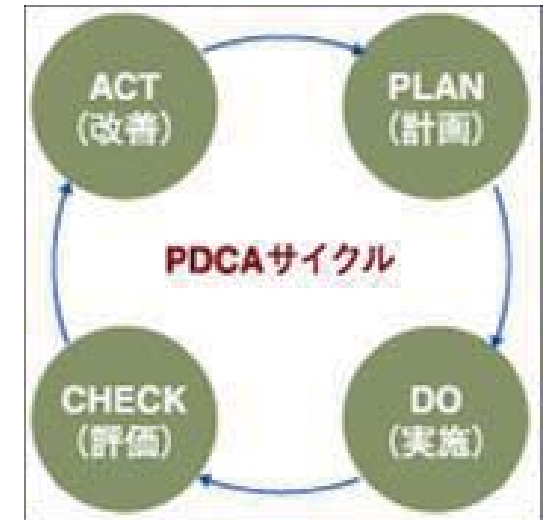
Source:Wikipedia

Plan-Do-See (PDCAサイクル)

□ 仕事を通じて得た知識

- 社会に出ると、業務知識だけでなくいろいろ鍛えられる
- 知識→実践→失敗→改善→ノウハウ蓄積

PDCAサイクルという名称は、サイクルを構成する次の4段階の頭文字をつなげたもの



Plan (計画): 従来の実績や将来の予測などをもとにして業務計画を作成する。

Do (実施・実行): 計画に沿って業務を行う。

Check (点検・評価): 業務の実施が計画に沿っているかどうかを確認する。

Act (処置・改善): 実施が計画に沿っていない部分を調べて処置をする

この4段階を順次行って1周したら、最後のActを次のPDCAサイクルにつなげ、螺旋を描くように一周ごとにサイクルを向上(スパイラルアップ、spiral up)させて、**継続的な業務改善**をしていく。

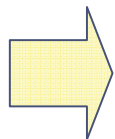
この考え方は、**組織経営、ISO などの管理システムや、ソフトウェア開発**におけるスパイラルモデルを始めとする反復型開発などに用いられる

Coach と Mentor

□ 定義はともかく、中身が重要

- 人生の岐路にたっているとき、有用なアドバイスをしてくれる人
- 直接(上司、サークル等)関係ある先輩か、外部かどうかは問題ではない

コーチ	メンター
基本に対して詳しく教えたり、応用を 教えてくれる人	師匠。仕事や物事の基本を教える。 また人生についても語ってくれる 人
ある決められた分野の指導をして くれる人	人生の生き方について、自分の実績 も踏まえて総合的にアドバイスを してくれる人
目標達成の為に 具体的、実質的に 指導をしてくれる人	人生においてのあらゆる面での師匠。 教え、導くだけでなく、その人の存在 自体が教科書となるような 人格者、 成功者

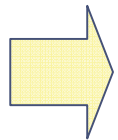


自分にとって、メンター候補者が適材かどうか見極めることが重要

Mentorの資質

□ 人物として基本的な能力

- 話を聞く能力(自分の自慢話・過去の経験を語らない)
- 相手のアイデアを理解する能力(フレキシブルな発想)
- 親しみやすい人物(否定的なコメントを発しない)
- いろいろな分野の知識・人脈・経験があること(相談者にはないものを持っている)
- 好奇心が旺盛であること(他人の身の上話に乗ってくれる)
- 秘密を守れること(他人に個人情報をべらべらしゃべらない)
- 前向きな人(過度に保守的な人からは、新しいアイデアは出てこない) 等



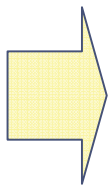
相談者が自ら、潜在的なメンター適任者を社内外に見つけることが重要(自らメンターを名乗る人はいない)

セルフメンタリングも有用

資格試験の勉強

□ 受験者との競争

- 一定数の合格者数が保証
- 100点(99点、絶対値)を取るのが目的ではない
- 一いえば十わかる優秀者は競争相手ではない
- 難関試験は、いかに当日アウトプットに反映できる知識や、能力を身につけることにつきる
- 1年間に勉強可能な時間数は、全員同じ
- 経験則上、合格に必要な勉強時間数は明らかになっている



目標年間2000時間をセットしたら、年間52週に分割

$2000h \times 1.2 (\text{余裕率}) / 52 \text{Week} = 46h$

平日平均8h、土日平均3hで、週46hを達成

一覧表を作成・毎日達成時間を書き込む

PDCAサイクルで、反省(もしくは褒めて)毎週見直す

Source:TACの年間スケジュール表

年収

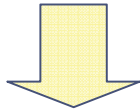
□ いくら欲しい？

- 現実をみよう
- 終身雇用は保証されていない
- 今後、Dependency Rateは急上昇

平均給与：男性500万円、女性263万円

男性「200万超～300万以下」層は一貫して増加傾向
 女性「100万超～200万以下」層も増加傾向
 男性「2000万超」層が僅かではあるが増加

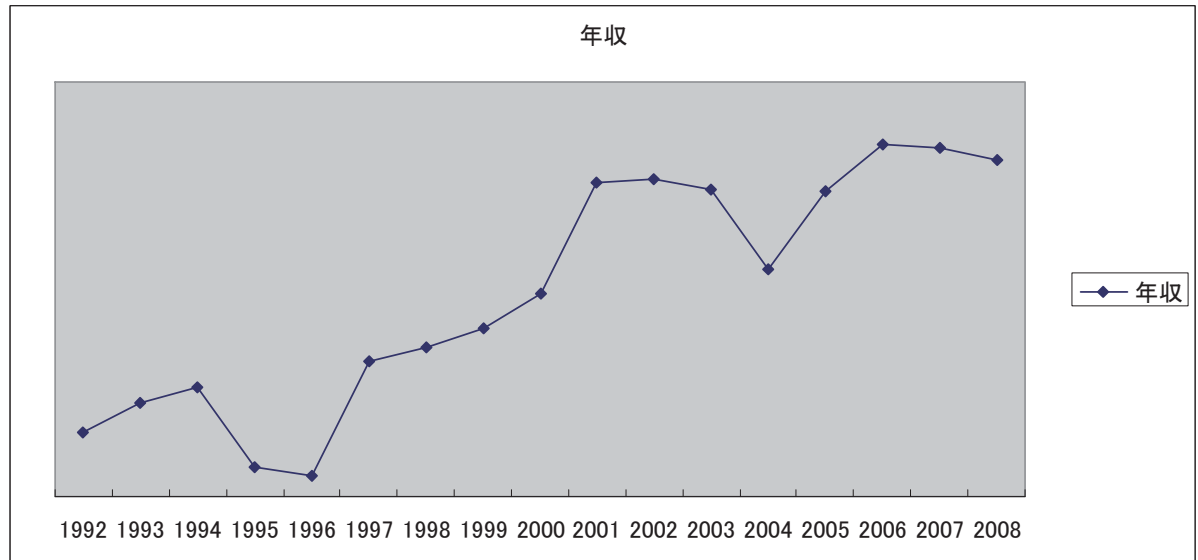
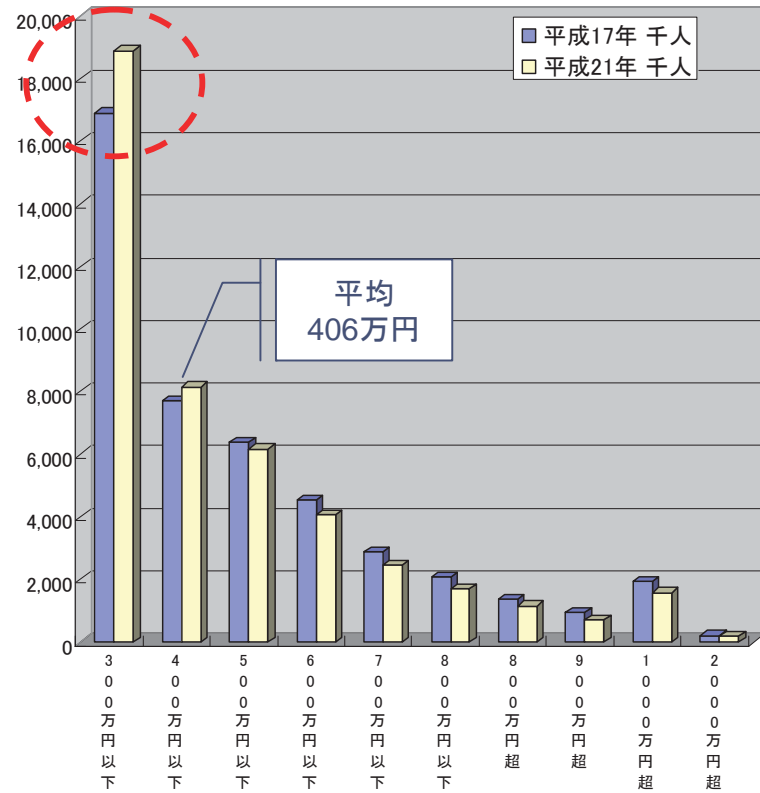
Source:年収ラボ



- 手に職をつける
- 必要とされる場所に身を置く
- 国内業務に固執しない
- 複数の専門スキルを身につける

Source:勝間和代さんの著書より加工

Source:平成21年国税庁の民間給与実態統計調査結果より加工



Source:源泉徴収票等

PricewaterhouseCoopers

最後に(私見)

□ 人生をEnjoy

- キャリアプランに正解はない。自分で綿密に調べて、それを大胆に実行すること、それ自体が有意義
- 今は金融資産よりも自分自身への投資のほうが、リスクが少なくリターンが高い
- 資格試験は運。挑戦しなけりゃ、受からない。命まではとられない

□ 不安定事項

- 日本労働人口の減少-経済の停滞
- 外国人労働者の取扱い-ダイバーシティ/治安維持コスト
- 悪平等の蔓延-有能な者をくじく社会
- 租税体系変更の可能性-大きな政府
- 日本のガラパゴス化-日本語パッシング



想定される状況に、いつでも対応できる自分の
ポジションを作っておこう



www.pwc.com/jp

PwC Global & Japan

のご紹介

Building relationships. Creating value.

2010 October

PwC Global について

PwC (プライスウォーターハウスクーパース)は世界最大級の
プロフェッショナルサービスファーム

■PwC*のメンバーファームは、クライアントの産業に焦点をあてた監査、税務、アドバイザリーサービスの提供を通じて、クライアントの企業価値向上を目指しています。
PwCグローバルネットワークのメンバーファームが有する世界154カ国、161,000人以上のスタッフ**が、見識や経験、ソリューションを共有することによって、常に新しい視点から実践に即したアドバイスを提供しています。

Assurance / Advisory / Tax

米州
48,071人

欧州・中近東・アフリカ
74,572人

アジア・太平洋
39,075人

Locations

154 カ国 766 都市

Revenue

266 億米ドル

People

161,718 人



PwCのBrand Promise

信頼関係を構築し、価値創造をサポートします



- 信頼が紡ぎだすもの。
- それは、あなたのビジネスに最適な新しい価値の創造。

Brand Promiseは、PwCからクライアントの皆様へのお約束です。

PwCの新ブランドは、変化の激しい時代に自らも変わり続け、時代を先取りしながら、クライアントの皆様には価値あるサービスの提供を約束することを意味しています。

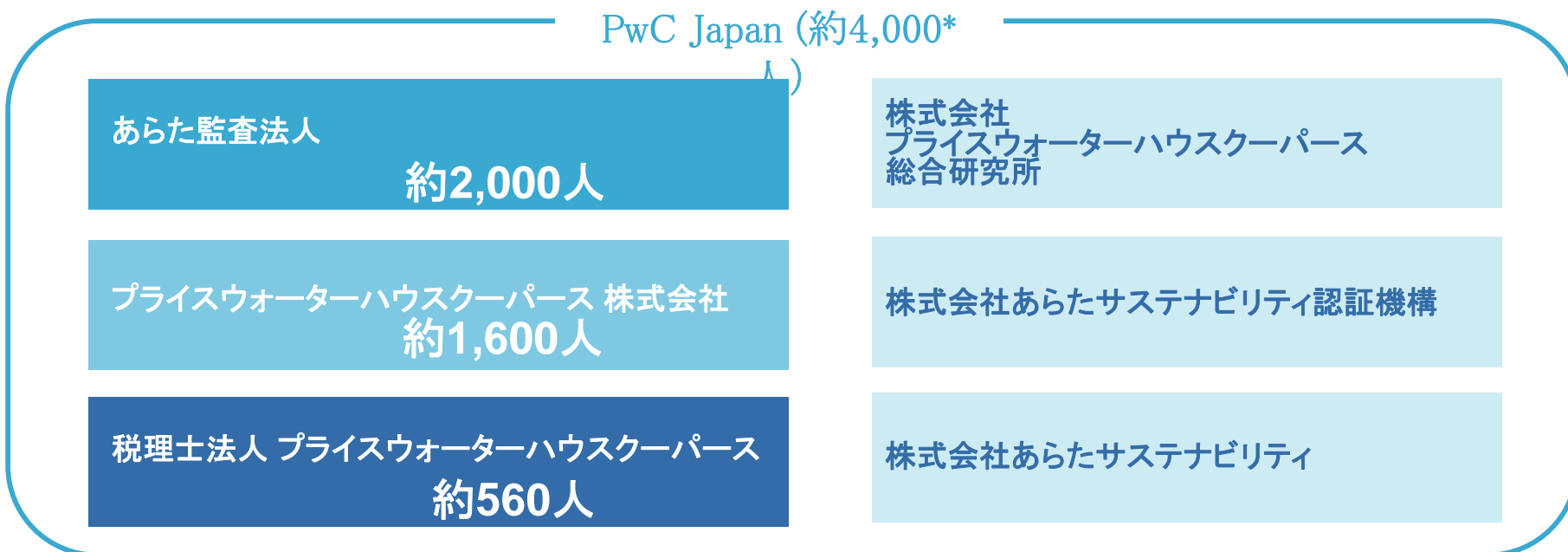
PwCは皆様と信頼関係を構築し、皆様のビジネスに最適な新しい価値の創造をお手伝いします。

PwC Japanについて

PwCの日本におけるメンバーファーム

- PwC Japanは、あらた監査法人、プライスウォーターハウスクーパース株式会社、税理士法人プライスウォーターハウスクーパース、およびそれらの関連会社の総称です。
- 公認会計士、税理士、その他専門職員約4,000人*を擁するプロフェッショナルサービスファームとして、クライアントニーズにより的確に対応したサービスの提供に努めています。

*As of 30 June, 2010



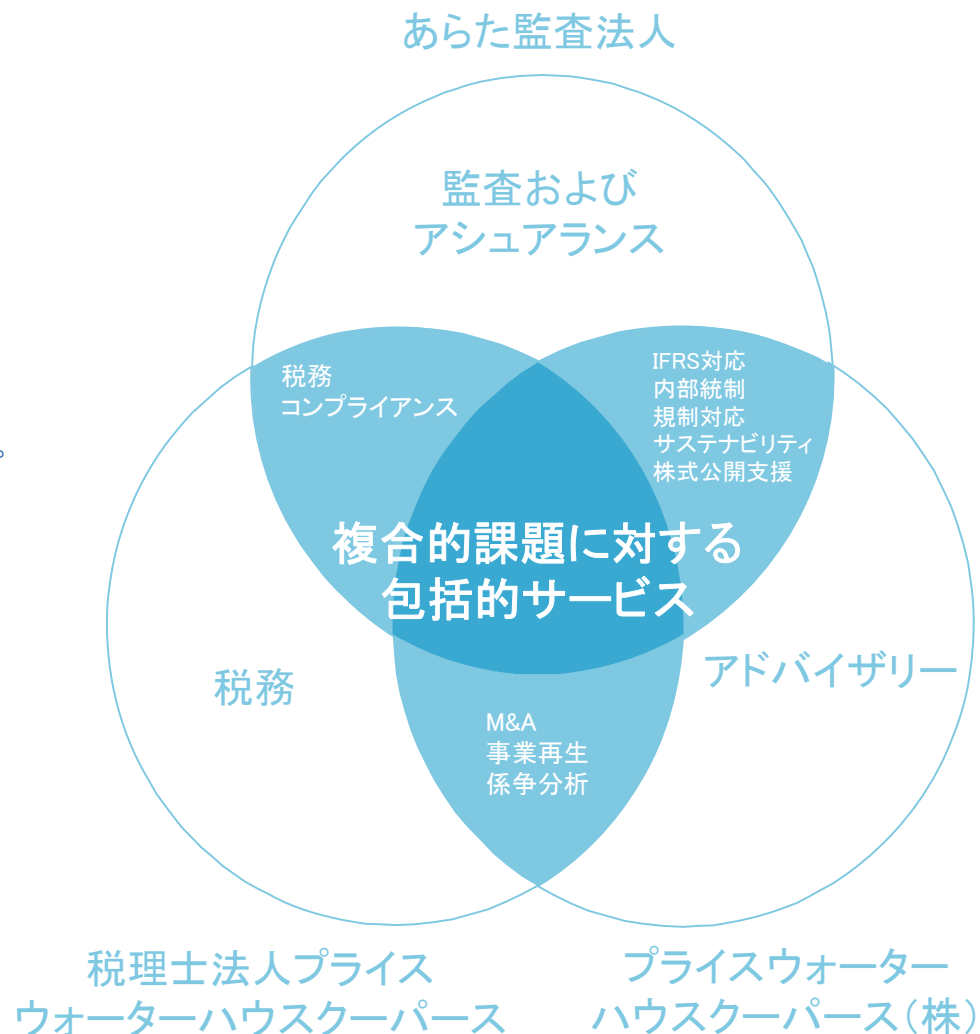
PwC Japanについて

“ One Firm”としてトータルサービスを提供します

□各法人はPwCグローバルネットワークのメンバーファームであり、それぞれ別法人として業務を行っています。

□複雑化・多様化する企業の経営課題に対し、PwC Japanでは、監査およびアシュアランス、アドバイザリー、そして税務における卓越した専門性を結集し、それらを有機的に協働させる体制を整えています。

□日本や世界の企業が国際競争を勝ち抜いていくために、PwCのグローバルネットワークを活用し、包括的なプロフェッショナルサービスをワンストップで提供しています。



PwC Japanのサービスライン

業界固有のクライアントの課題を解決する専門チームを編成しています

製造・流通・サービス

自動車 / エネルギー / 化学・医薬
産業資材 / 小売・消費財 / サービス
テクノロジー / エンタテインメント / 情報通信



金融

銀行・証券 / 保険 / 資産運用



官公庁・公的機関

官公庁 / 国際機関
NPO・NGO / 教育
ヘルスケア



コアアシュアランス/財務報告アドバイザー
リスク・コントロール・ソリューション

あらた監査法人

ディールアドバイザー/コンサルティング

プライスウォーターハウスクーパース株式会社

税務コンプライアンス/税務コンサルティング

税理士法人 プライスウォーターハウスクーパース



pwc

□本冊子は概略的な内容を紹介する目的で作成されたもので、プロフェッショナルとしてのアドバイスは含まれていません。個別にプロフェッショナルからのアドバイスを受けることなく、本冊子の情報を基に判断し行動されないようお願いします。本冊子に含まれる情報は正確性または完全性を、(明示的にも暗示的にも)表明あるいは保証するものではありません。また、本冊子に含まれる情報に基づき、意思決定し何らかの行動を起こされたり、起こされなかったことによって発生した結果について、あらた監査法人、プライスウォーターハウスクーパース株式会社、税理士法人プライスウォーターハウスクーパース、およびメンバーファーム、職員、代理人は、法律によって認められる範囲においていかなる賠償責任、責任、義務も負いません。

□© 2011 PricewaterhouseCoopers Aarata, PricewaterhouseCoopers Co., Ltd., Zeirishi-Hojin PricewaterhouseCoopers. All rights reserved. In this document, "PwC" refers to PricewaterhouseCoopers Aarata, PricewaterhouseCoopers Co., Ltd., Zeirishi-Hojin PricewaterhouseCoopers, which are member firms of PricewaterhouseCoopers International Limited, each member firm of which is a separate legal entity.